福岡ワイド

あなたに見せたい絵があります。
――石橋美術館

◇中◇

パブロ・ピカソ「腕を組んですわるサルタンバンク」

残された デッサン

パブロ・ピカソ「腕を組んですわるサルタンバンク」（1923年、油彩、石橋財団ブリヂストン美術館蔵）©2012-Succession Pablo Picasso -SPDA(JAPAN)

32年前にオークションでの落札で世間をにぎわせたこの絵は、今もブリヂストン美術館の看板作品の一つです。

作者は、パブロ・ピカソ。正面と側面の顔を合体させて描いたような作品のイメージが強く、この絵を見て、すぐピカソの作だと思う人は、多くはないようです。次々と、さまざまな表現に挑んだのが、まさにピカソで、これは新古典主義と呼ばれる時期の代表作になります。黒の輪郭線でかたどり写実的に表されたサルタンバンク。そのプロポーションの良さが象徴するように、安定感のある構図や色彩の効果など、全てにおいて調和が重視されています。

そんな中、画面左側、うっすらとデッサンの跡のような線が目に付きます。これによって、ピカソが現状とは違う構想を抱いていたことが分かるのですが、どんな絵を描こうとしたのだろうと、想像するのも一興です。

さらに、私達の想像を膨らませてくれるのが、赤外線撮影で分かった女性像の存在。女性はこの男性の左側にもたれかかり、その肩を抱くように男性の腕は描かれています。漂ってい

人・話題

ふるさと

英語教室をボランティアで開いている古川勝利さん(53)　粕屋町の公民館で週1回、地元の小学生を対象に英語を教えています。国際共通語の英語に興味を持って、将来世界で活躍してほしいと考えています。フィリピンなどで農業支援の仕事をしており、慣れ親しんだ英語で社会奉仕したいという思いで昨年始めました。

手作りテキストでは英語に片仮名のルビを振らず、私から聴いたままの発音をまねてもらうようにしています。子どもが上達する姿は一番の喜びです。

講座はお年寄りにも評判になりました。今後は小学生とお年寄りに、一緒に学んでもらうことも計画中です。

現地で交流を深め 小川知事らが帰国

県のブラジル訪問団

ブラジルに移住した県内出身者の子弟で、県費留学した211人でつくる「県費留学生OB会」が1日、現地で設立された。小川洋知事や県議会各会派の代表者など14人の訪問団は、8月28日から8日間の日程でブラジルを訪れ、サンパウロで1日に行われたOB会設立記念式典に出席。関係者と交流を深め、4日夜に帰国した。

訪問団は式典出席のほか、ブラジル日本移民開拓先没者慰霊碑への献花や、在サンパウロ総領事公邸でモーション」を県国際交流局は「今回の訪問これまでの交流を通じた交流

戸畑百年 つくる 育む 守る

10

提灯山笠 女も血騒ぐヨイトサ

「彼氏と思ってしっかり抱きついて」。体を寄せ合い、前後に突き出した棒を必死に担ぐ若い女性たち。そこに商店街のおかみさんや一般公募のメンバーたちベテラン勢はやしの音が聞こえるとが指導する。緑の指導する声が飛ぶ。Tシャツの背中に「女山」の文字が浮かぶ。

8月下旬、北九州市戸畑区の中本町商店街。「お女も血が騒ぐ。ヨイトサに参加しないと夏が終わらない」と、アーケードに駆けつけたのは近くの森永善枝さん(64)。

戸畑区で200年以上の歴史を誇り、夜に勇壮な提灯山笠が練り歩く「神事とは別っても全く認めった」。商店街

伝統神事「戸畑祇園大山笠」―ではない。女人禁制の戸畑祇園に対し、商店街の女性たちが1999年に地域を活気づけるイベントとして始めた「ヨイトサまつり」の練習だ。本番は担ぎ手もおはやしも女性に限られる。

この日の参加者は約30人。戸畑祇園に携わって夫と園芸店を営む子さん(65)。ヨ立ち上げた中心当初、歴史ある衆から反発を受そのころ那木男は四つある戸男山の一つ、東執行部の一員だ